

「熊蜂の飛行 (くまばちのひこう)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「熊蜂の飛行」(くまばちのひこう)という曲がある。ロシアの作曲家、リムスキー=コルサコフの作曲で、熊蜂が飛ぶ時の大きな翅音や、飛ぶ動作を楽曲とした、いわゆる「描写音楽」の一つである。



「熊蜂の飛行」楽譜 (7小節目からが主旋律)

私はかつてこの曲を、無謀にもフルートで挑戦したことがある。ほとんど十六分音符ばかりの半音階スラーの連続で、息継ぎすらできない。しかも速度記号は「Vivace」と、とんでもない速さで演奏しろという指示だ。まったく、演奏者泣かせの迷惑な楽譜である。私は、練習開始30秒後に挫折した。

さて、「イタドリ広場」に4年生の子どもたちを連れていく目的は「春の野草探し」だが、花が咲いている野草が多いということは、当然昆虫もたくさんいることを意味する。テントウムシやモンシロチョウ(「紋・白蝶」と発音するのが正しい)は良いが、時には、あの時の楽譜のように少々迷惑な飛来者もある。



今の時期「イタドリ広場」には、この黒くて大きなハチをよく見かける。ミツバチなどより二まわりぐらい大きい。これが「熊蜂 (くまばち)」である。正式な和名は「クマバチ」、全身真っ黒で、翅まで黒いが、背中黄色は鮮やかだ。



「クマバチ」*Xylocopa appendiculata circumvolans*

クマバチは大きくて真っ黒で、見た目が本当に恐ろしい。しかも、ブーンという低くて大きな翅音を立てるので、初めて出くわした時は、大人でも走って逃げ出す者が多い。しかし、活発に動き回るのはオスだけで、クマバチのオスは毒針すら持たない。性格も非常に温厚で、手に載せても大丈夫である。マメ科の植物(フジやニセアカシア)の花を特に好む。

アブの仲間(たとえばウシアブ)は翅が2枚なので、ホバリング(空中停止)が苦手で、すごい速さでブンブン飛び回る。しかしハチの仲間は翅が4枚で、それを交互に動かすことで、ホバリングを得意とする。体の割りに翅が小さく、その翅を激しく動かすので、まるで体だけが空中に浮かんでいるように見える。もしクマバチに出くわしたら、ゆっくり観察させたい。

【子どもの記録から (4年生)】

「今日、いたどり広場で、熊んばちが飛んでました。わたしのほとんど目の前で、空中で止まっていて、ブーンというすごい音をたてて、すごくこわかったです。でも先生が「ささないから、こわくないよ」と言ったので、少し安心しました。体は真っ黒で、せなかが黄色でした。はねは、すごいはやさで、見えませんでした。きっと、タンポポのみつか何かをすいに来たのだと思います」